

# あいさつ

剣道連盟副会長  
杖道連盟会長

渡邊 三則



杖道は、夢想権之助が創始した「神道夢想流杖術」が起源とされ、昭和31年神道夢想流が「全日本剣道連盟」に加盟、同43年「全日本剣道連盟杖道」が制定されました。同49年には第1回全日本杖道大会が開催されました。

杖道は、一般に攻撃と防御を合理的に組み合わせた形を反復して稽古をする形武道のことです。

杖道の形は総て杖と太刀の組み合わせで出来ているため、長さ四尺二寸一分（約128cm）、白樫の丸木、直径八分（約2.4cm）と、白樫の木刀を用いて行います。

「全日本剣道連盟杖道」は、一人（単独）または二人（相対）で行う基本12本と、二人で攻撃防御の形稽古を行う杖道形（組形）12本があります。特に形では、打太刀、仕太刀仕杖しじょうに分かれ、攻撃防御を行う。気合は打ち込みで「エイッ！」突きで「ホォッ！」と力強く発声します。

杖道の試合は、2組の出場者が、規定の

術技を仕交代して演武し、その「充実した氣勢」、「正しい姿勢」、「正確な打突と打ち込みの強弱」、「間合と間」、「礼法」などを審判員3名が判定して勝敗を決します。

杖道の稽古は、伝書に「突けば槍、払えば薙刀、持たば大刀、杖はかくにも外れざりけり」とある様に、永年伝えられて来た突き、払い、打ちの組み合わせられた形を反復して行うものです。そして身体の鍛練は勿論のこと姿勢を正し反射能力を養い、仁徳、義徳、礼徳、智徳、信徳、勇徳の六徳を修業し、人間形成に役立てる他、護身の技（術）を身につけることを目的としています。

現在の高知県剣道連盟杖道部は、平成20年4月1日発足し、土佐杖道会と清風館道場の二つの団体により運営しております。

稽古場は、練武館道場と清風道場が主な会場です。また、毎月1回日曜日には、武道館で合同稽古も行っています。

昨年度の全日本杖道大会（大阪）には、初段から四段まで9組18名が参加しましたが、入賞には至りませんでした。

昇段審査は、毎年1回8月に愛媛の先生を招聘して行っており、平成23年度は、20名が初段から五段まで昇段しております。

杖道部は、発足して4年目ですが、会員の努力により着実に全体のレベルが揚がっており、ほとんどの会員が昇段しております。

今後とも、高知県剣道連盟の協力により頑張っ行ってきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

## 剣道審査会

4月29日 京都府立体育館

六段 松田 有可  
岡本 升博  
山中 康喜

8月26日 岡山県総合グラウンド体育館

六段 國重 道大  
宮本 泰成  
竹田 真史  
桑名 龍吾  
黒岩 隆三

4月30日 京都府立体育館

七段 枝重 恭一  
濱田 宏  
谷木 利勝  
村永 伸夫

8月25日 岡山県総合グラウンド体育館

## 居合道審査会

7月6日 佐賀県総合体育館

六段 出淵 靖志  
七段 今村 文彦

